

小笠原に暮らすイルカたち～識別ポイントは背ビレ！～

今号では、小笠原海域で識別されているミナミハンドウイルカをご紹介します。登場するのは、2021年3月に発行された『小笠原のミナミハンドウイルカ 個体識別カタログ2020』には惜しくも個別掲載されなかったけれど、ここ数年も観察されており、識別しやすい特徴のある3個体です。どの個体も背ビレの形がとてもユニークなので、船上からの識別にもチャレンジしてみてもいいのではないでしょうか。

#86

トンガリ
(オス)観察歴
2001年～

これまで父島・智島列島で観察されていますが、ほとんどが父島列島での遭遇です。とんがった背ビレがニックネームの由来となっています。体の右側にあるダルマザメの噛み跡も識別ポイントです。

#87

ヘコ
(オス)観察歴
2004年～

これまで父島・智島列島で観察されていますが、智島列島での確認は2015年の1回のみ。一番の識別ポイントである平らな背ビレは、2010年に先端が欠けて今の形になったようです。体の左側には、水中でも目立つ白斑があります。

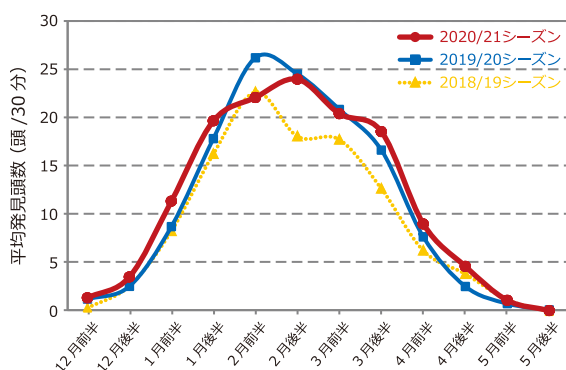
#281

バックマン
(メス)観察歴
2012年～

こちらもこれまでに父島・智島列島で観察されています。先端が二又に欠けた背ビレは、船上からでも一目瞭然！左の胸ビレの欠損も識別のポイントになります。2019年には新生児を連れてくる姿が初めて確認されました。

※写真提供：打込 みゆき

ザトウクジラ定点観測結果報告～2020/21シーズン～



2020/21シーズンの半年間のザトウクジラ定点観測結果のご報告です。12月前半の平均発見数は昨シーズン並みでしたが、12月後半から1月後半にかけては、過去2シーズンを少し上回る値で推移していきました。2月に入ると増え方が緩やかになり、2月後半に観測ピークを迎える結果となりました。3月前半の平均発見数は昨シーズンと同様に20頭を超え、また、後半になっても平均20頭弱が観測されましたが、4月に入るとガクッと数が減少し、4月前半の観測結果は平均10頭以下となりました。4月下旬には再び二桁頭数を観測する日もありましたが、その後は徐々に数が減っていき、定点観測では5月19日をもって最後の発見となりました。今シーズンはピーク時こそ昨シーズンの発見数に及びませんが、3月後半になっても昨シーズン以上に多くのクジラが見られたため、ピーク期間が長く感じられた方もいたのではないのでしょうか。